

## 平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

- 「ものづくり」を通じた教育を念頭におき、全ての教育活動において以下のことを実践し、地域に信頼され、生徒が誇りをもって卒業する学校。
1. 生徒一人ひとりの総合的な人間力の充実が図られている。
  2. 自信を持ち、自ら変革を起こせる生徒、自ら新しいことにチャレンジする生徒が育っている。
  3. 専門分野の深化と高度な専門性を身につけるための高等教育機関への接続の2つの方向性を基本とした教育内容の充実が図られている。

### 2 中期的目標

#### 1 確かな学力を育成する学校

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。
  - ア 公開授業や研究授業、授業アンケートを活用し授業改善に組織的に取り組む。
  - イ 少人数授業の展開や実習内容の充実を図り「わかる授業」「考える授業」を展開する。
  - ウ 信頼関係に基づいた指導を充実し、コミュニケーション力の育成を図る。
    - \*生徒向け学校教育自己診断の「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」(平成 24 年度 1 年生 58%)を毎年5%引き上げ、平成 27 年度に 75%を達成する。
    - \*生徒向け学校教育自己診断の「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」(平成 24 年度 1 年生 63%)を毎年4%引き上げ、平成 27 年度に 75%を達成する。
- (2) 各種検定合格や資格取得、コンテスト応募を積極的に指導する。

#### 2 豊かな心をはぐくむ学校

- (1) 生徒との信頼関係を基本とした毅然とした生徒指導を行い、問題行動の防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。
  - ア 挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時のマナー指導を徹底する。
    - \*平成 27 年度には遅刻生徒数を平成 24 年度の 30%減を目標とする。
    - \*平成 27 年度には再履修生徒数、転退学生徒数共に平成 24 年度の 30%減を目標とする。
- (2) 人権教育を推進し、社会人に相応しい人格と態度を養う。
  - ア 発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。
    - \*生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(平成 24 年度 1 年生 54%)を毎年5%引き上げ、平成 27 年度に 70%を達成する。
- (3) 生徒の自己実現への支援に努める。
  - ア 教育相談体制の充実に向け、分掌・学年・系・教科の連携を深める。
    - \*生徒向け学校教育自己診断の「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる」(平成 24 年度 1 年生 38%)を毎年5%引き上げ、平成 27 年度に 55%を達成する。
  - イ キャリア教育の充実を努める

#### 3 安全安心で魅力ある学校

- (1) 生徒活動を活性化させる。
  - ア 学校行事、学年行事などに積極的に生徒がかかわるよう支援する。
  - イ 部活動等の活性化を組織的に支援する。
    - \*部活動の参加率を毎年5%増加させ、平成 27 年度に 65%以上にする。
- (2) 公開授業を実施するなど P T A 活動や学校協議会等の一層の充実を図る。
  - \*保護者向け学校教育自己診断の「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」(平成 24 年度 50%)を毎年3%引き上げ、平成 27 年度に 60%を達成する。
  - \*保護者向け学校教育自己診断の「学校では、PTA 活動は活発である」(平成 24 年度 80%)を維持する。
  - \*保護者向け学校教育自己診断の「学校では、教育情報について、提供の努力をしている」(平成 24 年度 75%)を毎年2%引き上げ、平成 27 年度に 80%を達成する。
- (3) 生徒が活躍できるホタルプロジェクト、植物工場、屋上庭園、太陽光発電、風力発電の活用計画を再検討する。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>特徴的な事は、保護者の自己診断の回収率がアップしたことである。(H24 は 150 名、H25 は 195 名)</p> <p>全学年で地震や災害が起きた時の対応について知らされているとの回答が改善しており、防災への取り組みが生徒によく伝わっている。1,2 年生ではすべての項目について肯定的意見が昨年度より多くなっている。また P T A メールが少ないとの回答があった。今後は保護者との連絡を大切にしていきたい。「1 年生は落ち着きがない」と指導の徹底を望む声があった。また、「校舎内の清掃の徹底」を望む声もあった。前向きな取り組みへとつなげていく。</p>	<p>平成 25 年 7 月 3 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年生は落ち着きが無く、騒がしい授業もある。1 年生でいかに勉強する意識をもたせるかが重要である。</li> <li>・ 授業アンケートの結果はよい結果だと思う。大学でも学生からの評価、自己評価、教員同士の評価を取り入れ授業改善をしている。</li> <li>・ 生徒を誉めることも必要である。</li> </ul> <p>平成 25 年 12 月 3 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験入学の参加中学生をもっと増やす努力を。</li> <li>・ ガス溶接ではなくアーク溶接に力を入れるべきである。</li> </ul> <p>平成 26 年 3 月 18 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A 活動を工夫したり、公開授業を増やすなど保護者が学校に来る回数を増やす取り組みをお願いしたい。</li> <li>・ 求人企業にインターンシップをお願いするとともに、インターンシップを経験した生徒の就職状況を調査しインターンシップの効果を明らかにする必要がある。</li> <li>・ 遅刻者のみを集めて特別指導する必要がある。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力を育成する学校	<p>(1) 基礎的・基本的な学力の定着 ア 授業アンケート、公開授業や研究授業、教員研修の取り組み</p> <p>イ 「わかる授業」「考える授業」を展開するための教員研修の実施。</p> <p>ウ コミュニケーション力の育成を図る。</p> <p>エ 資格取得等を積極的に推進する</p>	<p>ア・公開授業を実施する。 校内向けの公開授業週間を設け、自分の専門以外の授業を見学し授業の改善に取り組む。 校外向けの公開授業日を設け、保護者、中学校教員に授業を公開し授業改善に取り組む。 イ・教員研修の実施 府教育センターのパッケージ研修を活用し、特に採用間もない教員の教員研修を実施する。 ウ・生徒発表会（課題研究）の実施 機械系、電気系、建築都市工学系、工業デザイン系の各系で課題研究発表会を実施する。各発表会には下級生に聞かせる機会を設ける。 エ・各系等で取得可能な資格を積極的に取得させる。</p>	<p>ア 一人1回以上の他教科の授業見学（座学）を実施する。</p> <p>イ 府教育センター指導主事の指導により教員研修の実施し、授業アンケート等により評価する。</p> <p>ウ 各系で発表会を実施。発表会に下級生を参加させる。</p> <p>エ 前年度を上回る合格者を出す。</p>	<p>ア 5月中旬に1週間公開授業週間を設け授業改善に取り組んだ。また、最終日の5月18日は校外向けの公開授業日とし、保護者、中学校教員に授業を公開し67名の参加を得た。(◎)</p> <p>イ 新採教員によるパッケージ研修を実施した。授業アンケートではディスカッション形式の授業の課題（時間配分、内容の精査、基礎知識の定着と活用方法）が明らかになった。来年度も他の教員による研修を予定している。(○)</p> <p>ウ 全系で課題研究の発表会を開催した。下級生に聞かせる発表は工業デザイン系、建築都市工学系で実施できた。来年度は全系で下級生に聞かせる取り組みを実施したい。(△)</p> <p>エ 計算時術検定試験の合格率は昨年度 62.6%であったが8ポイント低下した。(△) 第二種電気工事士資格は35名合格し、昨年より8名上回った。(◎)</p>
2 豊かな心をはぐくむ学校	<p>(1) 信頼関係を基本とした生徒指導の取り組み</p> <p>ア 挨拶指導・遅刻防止指導・校内美化指導・通学時のマナー指導を徹底する。</p> <p>イ 発達段階に応じた人権教育と、学年別人権教育の充実を図る。</p> <p>ウ キャリア教育の充実に努める</p>	<p>ア・遅刻防止指導の徹底 遅刻者に対する特別指導（遅刻5回ごとに特別指導を）を徹底する。 ・自転車運転のマナー指導の徹底 昨年度から実施している自転車ステッカーの自転車への貼り付け指導を徹底し、あわせて交通安全指導を徹底する。</p> <p>イ 学年団ごとの人権HRの計画を人権推進委員会と連携しながら実施する。</p> <p>ウ 西工ものづくりコンソーシアムを設置し、インターンシップ、企業連携実習、資格取得の充実、地域連携事業の充実を図る。</p>	<p>ア 遅刻生徒数、再履修生徒数、転退学生数 10%減を目標とする。（平成24年度は8%減） 通学時の自転車事故ゼロを目標とする。</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」（平成24年度1年生54%）を5%引き上げる。</p> <p>ウ ものづくりコンソーシアムを設置する。</p>	<p>ア 遅刻生徒数は微増、再履修生徒数、転退学生数はほぼ同数であった。(△) 通学時の自転車事故は1件であったが、大事には至らなかった。引き続き安全指導を継続する。(△)</p> <p>イ 人権HRについては計画的な実施ができなかった。 新たに地震や津波に対する防災訓練を実施し、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」は70.6%となった。(○)</p> <p>ウ 本年度のインターンシップはのべ参加生徒が約1.5倍（52名）、受け入れ企業も1.4倍（15社）となり充実したものになった。本年度設置したコンソーシアムを活用し、さらに増やしたい。(◎)</p>
3 安全安心で魅力ある学校	<p>(1) 生徒活動の活性化 ア 学校行事、学年行事などに積極的に生徒がかかわるよう支援する。 イ 部活動の活性化を組織的に支援する。</p> <p>(2) 公開授業を実施するなどPTA活動や学校協議会等の一層の充実を図る。</p> <p>(3) ロボット大会、コンクール等のイベントへの積極的な参加</p>	<p>ア 府産業教育フェア、西淀川ものづくりまつりなどを生徒が主体的に参加する取り組みとする。</p> <p>イ 部活動の加入率、活動状況の向上を図る</p> <p>ウ 公開授業を実施し、生徒の学校生活について広く保護者に伝える。</p> <p>エ 各種大会に積極的に参加する。 ・各種ロボット大会に参加する。 ・各種イベントに参加する。 ・各種コンペに参加する。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」（平成24年度2年生65%）を70%にする。</p> <p>イ 部活動の加入率を55%に向上させる（平成24年度49%）。</p> <p>ウ 保護者向け学校教育自己診断の「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」（平成24年度50%）を3%引き上げる。 保護者向け学校教育自己診断の「学校では、教育情報について、提供の努力をしている」（平成24年度75%）を2%引き上げる。</p> <p>エ 各種ロボット大会・イベント・コンペに参加する。</p>	<p>ア 府産業教育フェア、西淀川ものづくりまつりとも昨年を上回る生徒が参加した。 「将来の進路や生き方について考える機会がある」は72.9%であった。(◎)</p> <p>イ 本年度、クラブ紹介等に力を入れたが加入率は昨年度と同じであった。魅力的な体験部など新たな取り組みを導入する必要がある。(△)</p> <p>ウ 5月に公開授業を実施し保護者の参加を得た。また、本年度は初めて地震・津波に対する避難訓練を実施したが、これも保護者に参加していただいた。 「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」は50.6%、保護者向け学校教育自己診断の「学校では、教育情報について、提供の努力をしている」は75.1%であった。(△)</p> <p>エ 本年度、ロボット相撲大会に参加した。結果は初戦敗退であったが、生徒は来年も出場の意欲を持っている。(◎)</p>